

OB会報

湘南サッカー一部OB会

第11号

最近のサッカー熱!!

日本サッカー協会監事

22回 桑田 孝

オフト監督になってからの日本代表チームは見違える程強くなり、一戦毎に力をつけて来ている。八月の北京・ダイナステイ・カップに優勝し、十一月、広島でのアジア・カップにも優勝した。

今まで、どうしても破れなかったアジアの壁を破り、ワールドカップに出場出来るような気配である。

それにつれてか、このところのサッカー人気はものすごく、どの試合でも観客が一気に増えて来ている。トヨタ・カップの切符は今まで以上に手に入り難くなったし、十一月二十三日のヤマザキ・ナビスコ・カップ決勝戦の切符は一ヶ月前に全部売切れとなり、元旦の天皇杯決勝の切符も発売日に直ぐに売切れて仕舞った。準決勝も売切れとなりそうだ。ヤマザキ・ナビスコ・カップの決勝戦では、三千万の切符を三万円でダフ屋が売っていたという。今や、ビッグ・ゲームでの切符はダイヤモンドのようになり、サッカー協会の後援会に入ると、一百万の会費で

全部の試合が見られると、入会希望者が殺到、後援会も新規加入をストップするという事態になった。

今年の正月の天皇杯決勝で、「国立を満員にしよう!!」と協会が一生懸命PRプレゼント作戦までして、観客動員を計ったことなど信じられないくらいである。そうなると、国立競技場でも狭い、もっと多勢入れる競技場が欲しいとどまるところがない。

二〇〇二年のワールドカップの開催地として、十五の都市が名乗りを上げているが、一番立派なのは青森で、ロンドンから設計士を呼んで設計させている。その通り出来たら他の都市は真青である。神奈川県では横浜が立候補している。新横浜駅から十分位のところに七、八万人収容の競技場を新設することである。予算は六〇〇億。七、八万人収容というのは、国立競技場を意識してのことであり、国立より大きくして、立派なものを作る

というのだから、出来たら、これらのビッグ・ゲームはすべて新横浜でということになるかも知れない。

ワールドカップの競技場の条件の一つに、観客席の三分二以上が屋根付というのがある。従って、新横浜の競技場も当然屋根付。これからは、雨が降ったらなどと心配せずに見られることになる。楽しみである。

ところで、どうしてこんなに急に燃え上って来たのか、火付役は誰れなのかと良く聞かれる。

Jリーグがプロとなってからの試合は確かに面白い。点が入るようになり、スピーディーであり、スリリングでもある。

読売―鹿島戦は三対三で決着がつかず、延長となり鹿島が勝った。延長はサドンデス、点を先に入れた方が勝つたとあって、どちらのファンも興奮し、ボールが渡るたびに大叫声、試合が終った時は、どちらのファンも疲れてしまったが、一人として試合の途中で帰るものもなく、皆んな大満足だった。『サッカーがこんなに面白いとは知らなかった!!』と招待客の人達(恐らく鹿島関係の人と思う)が口々に言っていた位だから一度見に行っただ人は、又行こうということになるだろう。私自身も大興奮、あんな面白い試合はなかった。

選手がプロになって一生懸命にやる、九十分どころか延長でも何んとか先に点を入れようとして走り廻る。スピーディーで、スリリングとあっては、観客が集まるの

は当然かも知れない。Jリーグがプロになったことは確かに選手の意識を変えたようである。

しかし、このスピーディになり、スリリングになった原因に、この七月に改定された競技規則第十二条の追加「ゴールキーパーへのパスの制限」と第十三条・第十四条の追加があると思う。この改定は「競技者がボールをけて味方ゴールキーパーに意図的にパスしたときは、ゴールキーパーは、このボールを手でふれることが出来ない。ゴールキーパーが手にふれた地点からの相手チームの間接フリーキックとなる」というものであり、第十三条フリーキックと、第十四条ゴールキックで「ゴールエリア内の守備側のフリーキック・ゴールキックを行う位置が、ゴールエリア内であればどの位置からでも行うことができる」というようになったことである。この改定はバルセロナのオリンピックで直ぐ実施されたが、これを見て来た岡塾IOC委員、サッカー協会副会長が「あれは良かった、今迄と違って面白くなった。何故もっと早く採用しなかったかと思う」と言っていた。

ったのである。

Jリーグでの火付け人は、川淵チャーマン（S36早大卒）であり、森専務理事（S35慶大卒）である。川淵・森の両人に言わせると、十年も前からJリーグのプロ化を言っていたのに採用されなかった。遅かったとのことである。

日本代表チームが強くなったのは、オフ監督に依るところが大きい。今までの日本代表選手と随分メンバーが入り替った。

日本人の監督だとしても今までのしがらみにとらわれ、駄目だった。思い切って外人の監督にして良かった」と協会のトップも喜んでゐる。外人の監督だとプロの世界。負けるとクビが当り前勝っていくらの世界である。だから選手の起用も勝つためドラスチックでもある。うまい者、走れる者を試合に出すのが当然で、好きだ、嫌いだといったことや、義理や人情が入る余地はない。一対〇で負けていて、あと十分しかないとなると攻撃的な選手を入れるのが当り前で、ラモスやカズや北沢がいくら頑張っている、これでは点が入らないと思うと、点取り屋の中山を入れるのである。これが当り、何度も何度も、最後の最後に中山が点を入れてゐる。いくらラモスがうまなくても、ケガで80%の力しか出せないとなったら、他の選手を出す。左から攻めなければ勝てないとなったら、左足でセンターリングが出来ない選手は使わない。サッカーはチームでするのである。

ら、チームワークが基本。ボールを廻すのも目的がなければいけない。ボールを持っている選手が出し易いところに全員が走る。目が合ったら、その選手が何を考えているか判らなければ駄目、等々、練習の時、何度でもストップさせ教えるそうである。柱谷選手が「基本ばかりで嫌になったが、それでチームが変り、強くなった。基本がどんなに大切かが判つて来た」と言っていたが、オフ監督に言わせると「何が基本か全然判っていない」となる。

ところで、今、日本に何人の外人選手が来ているのだろう。毎月の理事会でいるんな国の選手の登録が報告されている。ブラジルを初めとする南米が一番多いが、イギリス・ドイツ・チェコ・韓国と色とりどり、女子ではスウェーデン・アメリカ・中国の選手もいる。Jリーグ・J1・J2・女子の日本リーグを合わせると全部で三〇〇人以上もいるのではなからうか。監督も読売・清水はブラジル人、鹿島も実質はジーコが監督である。オフ監督の成功でこれから外人監督がもっと増えて来るものと思われる。サッカーの国際化も急である。そのうちバリの外人選手が来て、もっと日本のサッカー熱を煽ってくれるかも知れない。

プロフェッショナル

への道

42回 関口 真

今、私はプロサッカーJリーグ「鹿島アントラーズ」の仕事をしている。もちろんサッカーそのものをやるわけではないが、もともと私にとって、遊びであり、思い出であり、俗に言う青春でもあったサッカーが仕事になったことにより、サッカーにあまり無責任でいられなくなつた感じがしている。

日本のサッカーがプロ化されて初めての公式戦、Jリーグナビスコカップは、ご存知の通り予想以上の反響を得た。プロ化されただけで、今までウジウジとしていた日本のサッカーがこれ程まで変わるとは誰も予想していなかったに違いない。鹿島アントラーズもリーグ随一の得点力で奇跡的にベスト4に残り、読売との準決勝で国立競技場のサッカーファンを魅了した。

アントラーズにはジーコがいる。彼は日本のサッカーの為に、昨年、アントラーズの前身である住友金属に来てくれた。来日以来、日本リーグ2部からこれまで、年齢を感じさせない素晴らしいものを見せてくれている。精神面の持久力と、展開の魔術、華麗なテクニク、どれをと



ってもこれ程のプレーをコンスタントに見せてくれるプレーヤーはいない。期待を裏切られたことは一度もない。見て楽しい感動の一言だ。加えてプロフェッショナルとしての考え方、その実行力と共に素晴らしいと感じさせる。その彼のサッカーにおける原点は「サッカーが好き」の一言だ。それに人間としての社会的責任、個人の欲求を満足させようとする努力を惜しまない姿勢がプロフェッショナルとしての彼を確立させるのだらう。そして今、日本のサッカーに身を投じてその全てを捧げている。今のサッカー人気がこうしたプロのしつかりとした土台の上で確実に成長して行くことを心から願っている。

私もサッカーが大好きだ。それを培ってくれたのは湘南のサッカー部である。それを原点に、鹿島アントラーズが茨城県鹿嶋地域の真のホームタウンチームとなるために、今の仕事に微力ながら努力して行こうと思っている。

日本の代表チームが初めてアジアカップに優勝し、「J・リーグ」最初の公式トーナメントである「ナビスコカップ」も大成功のうちに終了した。それらの大会を通じ、サッカーに対する注目度が格段に高くなっていることに驚いた人も多かったに違いない。それはそうだ。それまで読売日産などの好カード以外では、本当に少ない観客しか入らなかったのだから。実は私も驚いた。「ブーム」だとはいえ、それほどまでに盛り上がることは、残念ながら、今はサッカーから離れてしまっている私だが、読売サッカークラブでコーチをしていた頃の選手たち、あの頃はまだ知る人ぞ知るとい存在だった選手達が、今はスターだ。偶然、原宿でカリオカ（ラモス選手の愛称）に合ったときも、行き交う人々がほとんど振り返る。「もう本当にスーパースターだな」。「いや、そんなことないっすよ」。そんな彼の言葉に自信が感じられる。

このブームの背景には、広告代理店のノウハウ、積極的な広報活動などが隠されているのだらうが、短期間でよくここまでノイズレベルを上げることが出来た

「変化こそ常態」

46回 湯浅健二

ものだ。それでも日本サッカーが確実にレベルアップしていること、そしてプロになったことで選手の意識にも大変革が起ったことだけは確かだ。結局サッカーをやるのは人間。そして、ヤル気によってはその一二〇%を出してしまうというののも人間なのである。

私はいま、国際マーケティングを扱う会社を経営している。マーケティング的観点からすれば、J・リーグの競合は他の「ドリーム・ビジネス」「エンターテインメント・ビジネス」ということになるうか。またもつと突き詰めれば、「ウィンドーショッピング」に行き着くかも知れない。とにかく今は、「変化こそ常態」という原則を踏まえ、競技場に足を運ぶ観客の多様なニーズを正確に把握し、顧客との間にフェアな「交換関係」を確立させることで確固たるプロサッカー市場を形成することに最重点が置かれなければならないだろう。先日、仕事でヨーロッパへ行った時、集客力の低下に悩むプロサッカークラブのマネージャー達が、「我々の今のテーマは、徹底したマーケティングの導入だ」と話していたことを思い出す。

プロサッカーの本場、欧州、南米では、素晴らしい集客力のあったサッカーが自然発生的にプロへ移行していった。ただ日本では、まだまだメディア操作でブームが作られたという印象はぬぐえない。日本の歴史における「マスブーム」の盛衰を観察すれば、現在の「J・リーグ

ーム」がそのまま順風満帆に伸び続けるとは考え難いが、それでもプロサッカーコーチの一人である私個人としては、このままブームが進展してくれることを願って止まない。

近況

41回 伊通元康

湘南ベガサスの若手チームの平成4年度の県リーグ成績は12チーム中4位の結果でした。因みに勝敗は6勝3敗2分で、終りました。前年度が3勝5敗2分の、11チーム中7位の成績でしたから、大幅な順位アップとなりました。この理由はメンバーが揃うようになったことにつきまます。

前年度より若返りを図ったわけですが、41年、42年卒の主体から、平成4年度はいよいよ45年卒が加わり、楽しみになってきました。優勝も狙える体制に漸く整ったことになりました。

メンバーの充実もさることながら、頼もしいのは、鈴木中先生がお目付け役で、ときどき試合に見えられることです。中先生が来られた試合は、どういいうわけか締った内容になり勝ちゲームに繋がりました。何年経っても僕達は中先生の傘の下に居ることを感じさせられました。

湘南ベガサスもチーム結成より早や15年となり、多くの卒業生が集う楽しいクラブとなりました。これも偏見に、岩淵先生の遺志を受け継ぎ育てて来られた諸先輩方の努力があったればこそです。平成5年度は真面目に優勝を目指します。

この拙文を読まれた40歳の君、ますます、参加しなさい。これは中先生の命令です!?

「ゆく年くる年」Jリーグスペシャル」をTVKほか全国放送!

48回 関 佳史

テレビ業界に入って十余年。サッカーの番組を作るといふ思いもかけない状況になってしまった。しかも、「ゆく年くる年」というメジャーな枠で。つい数年前までは、業界の中でもマイナーな存在であり、「サッカーが趣味」とか「毎週サッカーの試合をやってます」とかいうと変人というレッテルを張られていたのに。今では、てのひらを返したように重宝がられている。

今年の日本サッカーの人気はとにかく凄い。まず、日本で初めての外人代表監督、オフトの就任あたりから少しづつムードが変わってきた。アルゼンチンのフル代表やセリエAでも常にトップクラス

のイベントスが来日し、(こうしたゲームが組めること自体が大変な事だ)日本代表は確実に力をつけていった。その結果が、北京での東アジア制覇。ラモスが充分でない状態でありながら、韓国に勝つことができた。そして、広島でのアジア・カップ優勝。オフトイズムが花開き、難敵アラブ勢までを薙ぎ倒した。日本代表のゲームは最後の最後まで見逃せない試合展開が続く、最後に勝つという最高の盛り上がりをもてくれた。TV局ではモニターと称して、他局の番組も勉強のために見る有り難い風習があり、11月はこの習慣をフルに利用させていただいた。また、中には取材と称して広島まで行ってしまふものもいたという。

代表が強ければ、国内試合も人気が出る。スタートしたナビスコカップも、試合ルールの工夫や、GKへのバックパスの規制などが狙いどおりうまく作用し、試合内容が攻撃的になった。また、清水浦和、名古屋など地域にねざしたチームに対して、サポーター達は毎試合駆け付け応援も進歩している。さらに、カズの結婚がワイドショーのネタとなり、サッカーは、ファン達だけでなくオンナ子供にもわかるスポーツになりつつある。Jリーグショップにいたってはいつも売り切れ商品続出。ニセモノまで出回っているとウワサがとんでいる。テレビ業界にも、「実はわたしも……」という人がふまえてきた。

というわけで、大晦日の年越しを今年

のスポーツ界でも最大級の話題「サッカー」でできることになってしまった。

番組は92年のサッカー十大ニュースなどという、昨年までは思いもつかない企画からはじまる。「アジアカップ優勝」「Jリーグカップ決勝で国立満員」「二〇〇二年ワールド・カップ誘致立候補」から「年棒一億円選手誕生」「カズ結婚」まで十ヶの話題が簡単に上げられる。そして後半では、Jリーグ参加十チームを紹介しながら、来年のJリーグ開幕とW杯予選を占う内容になる。我々サッカーおたくにとって革命的であった今年のポイントにはVTRですべてみせてしまう。

ビデオで録画をオススメします。放送は十二月三十一日の午後十一時から午前一時まで。TVKほか千葉テレビ、テレビ埼玉など独立U11局で全国ネットする。Jリーグ関係で活躍している湘南OBの協力もあり、番組制作に際しても何かと心強い。日本リーグ・住友金属で選手として活躍された関口真さん(42回)は、ジーコの鹿島アントラーズのフロントでチームの後援会組織を担当、地元との関係づくりに励んでいる。銀行マンから昨年Jリーグ事務局にトラヴァージュした篠塚毅さん(54回)は、経理総務主任という肩書が、総勢15名という所帯のため、選手の生涯年金のお世話から、我々放送局との交渉事、試合記録のデータベース/システム化など幅広く取り組んでいる。

また、マスコミで活躍する音楽評論家の細川周平さん(48回)は、音楽研究と

称して(サッカー観戦のため?朝日新聞書評委員を途中下車してまで)ブラジルへ1年行っていたが9月に帰国。ブラジルでもイタリアでも何でも来いのサッカー狂いにつける薬はないところか。こうした皆さんに、貴重なアイデアとアドバイスを頂き、励まされ、時には乗せられながら、まさに番組の制作中である。いざれ劣らぬサッカー・フリークのスタッフの手による番組。是非ご覧下さい。

それにしても、我々も皆で応援できるチームが欲しいですよ。マリノスとフリーゲルズ頑張ってください!

今、何故サッカー

54回 篠塚 毅

今、何故か世の中サッカーである。プロリーグが発足するというので、少しは注目され出したかなと思っていたら、日本代表のキリンカップ・ユベントス戦での善戦で風向きが変わり始め、ダイナステイカップ優勝、ナビスコカップ予選の盛り上がりで完全なフォロウの風となり、後は成り行きと申しませうか、代表はアジアカップで優勝するは、カズ結婚直後にヴェルディが優勝するは、おまけにナビスコ決勝チケットは一か月も

前に完売、天皇杯決勝も既に売り切れらしい。これはちょっとおかしい。何か話が出来すぎだ。きつとバブル経済のように、気がつくとも元の木阿弥ではないかと関係者一同ハラハラしている毎日です。(ちなみに、ナビスコカップ全48試合中、雨天の試合は僅か2試合。天も完全に味方している。)

さて、皆様にはご報告が遅れましたが、私こと、この度8年務めました銀行を退社し、社団法人 日本プロサッカーリーグに就職いたしました。別に、バブルが弾けて、銀行員生活が嫌になったわけでも、サッカーが死ぬほど好きだったわけでもないのですが、「これはおもしろそうぞ」とふと思ひ、衝動買いをしてしまったのです。(しまったこんな筈ではなかったと感じつつ)しばらくはサッカーでご飯を食べていただくことになりました。

プロだ、プロだと大騒ぎしているけど、一体Jリーグって何なんだ、と皆様疑問をお持ちのことと思いますが、一言で言ってしまうえば、やはり「夢」なんだと思います。(実現するのが困難である目標を持っているという意味において)

Jリーグの設立の理念とは、①「スポーツ文化」としてのサッカーの振興。②日本サッカーの強化と発展。③選手・指導者の地位向上。④ホームタウン環境の整備。あまり知られていませんが以上4点です。①は抽象的の意味不明。②、③は代表がW杯に出るということで目標達

成される。④は一番のポイントで、地域に密着したクラブ作り、つまり欧州風のクラブを目指すという訳です。

もっと噛み砕いてしまえば、①代表の強化②経済基盤の確立③クラブ化の3本立てと言えらると思ひますが、①は光が見えてきた、②はJリーグは儲かっているように見えても、各クラブが4万人収容のスタジアムを持つまでは難しい、③はまだ海のものとも山のものともわからぬのが現状で、それだから見果てぬ夢だと思ひます。特に学校スポーツが基本である日本の風土の中で、地域に根ざしたクラブが育つか、これは壮大な実験であると思ひます。現状でも、大学選手の中退等で教育の現場の方々と問題は起きていますし、今後も同様の障害が起こるであろうことが容易に想像できます。しかし10年いや30年かかるかもしれない。その時はサッカーに關係していないかもしれない。でもこの実験は見守っていく価値があると思ひます。

さて、ただのサッカー少年がいきなり現場に飛び込んでしまったので、戸惑いの毎日です。やれ代表監督のオフトさんと会える、井原君と話ができる、現役時代、あれだけ憧れていた国立競技場のグラウンドにだって立てる……これはただのサッカー少年としてはとんでもなく素晴らしいことだと思ひますが、国立のバックスタンドで、顔にペイントして、旗振りながら大騒ぎしているファンの皆さんを見て、「やっぱりあそこの方が何倍

も良さそうだな」と実感する今日この頃です。

今年のサッカー部

54回 藤塚久雄

92年度は、ゼロからのスタートであった。91年度の新人大会で県大会まで進めなかった為、約5ヶ月のあいだ公式戦に出場出来ず。インターハイ県予選を目標にチームを再編成しなければならなかったからである。

68回生は、新人の県大会に出場できないことが決まると、部活をやめてしまうもの、部活をサボるものが目立ち、練習にも熱が入らなくなった。それが、チーム全体に悪影響を及ぼさないようにするのが、第一であった。苦しい痛みを伴う選択ではあったが、5ヶ月の長いトンネルを抜ける苦労をチームと分かち合えないうそもない生徒には、部を離れてもらった。そして、新生サッカー部の挑戦が始まった。

OBの皆様もご存知のように、近年のサッカーブームで、サッカー人口は飛躍的に増加している。一方で、サッカーを取り巻く環境も整備され、その価値が高まるにつれて、優秀な選手は、スカウティングによってのみ獲得できるという

問題が、中学から高校に進む時点でも起きている。一部の私学が強豪たり得る所以である。実際のところ、多かれ少なかれ、サッカーに於ける有名公立校もそうなのである。

ところが、湘南では一切スカウトによる入学者はいない。それで良いと私は思う。湘南には、そのサッカーに対する、又、学業に対する独自の哲学があつて良いと考えるからだ。

チームが弱い時があつたり、逆に、全国大会に出るようなことがあつたりと、それは、その時代に集つた部員にもよつて当然あつてよいものだろう。

だが、サッカーに不熱心であつてはならない。高校生年代において、夢中で何かに打ち込むことが出来るこの最適な時代に、湘南生の持つ集中力をいかんなく發揮して、全国的に湘南の名を知らしめて来た先輩達を思う時、熱中することの素晴らしさを再確認してスタートしなければと考へたのである。

新チームに残つた生徒達は、それまでと同じように、バスワークを主体としたチーム作りをする中で、積極的なディフェンスを心がけて順調に仕上がつてゆき、今年度のインターハイでは4回戦まで勝ち上がる事が出来た。ゼロからのスタートとしては上手出であつたと思ふ。

インターハイ予選終了後、3年生3名を含めて、2年生主体のチーム作りをする上で、5ヶ月のトンネルは、大変役に立ったと思ふ。それは、本当に熱心にな

れる者だけが、3年生として選手権大会を目指してチームに残ってくれたおかげで、チーム全体が、また活力を得たようであったからだ。夏休みに行なわれた一次予選最終戦で、旭を破り、ベスト16入りを果たした時、選手達は、涙をみせた。この時、みせた涙がすべてであった。これからも、勝って涙を流せるような、そんな湘南でありたいと思う。

現役報告

副主将 長谷川 真

我々第68回生サッカー部は、新人戦で藤沢北に敗れ県大会そして関東大会予戦の出場権を失い、前途多難なスタートをきりました。しかしこの雪辱を果たすため、部員一丸となり、それまでの強引なサッカーを改めバスワークを主体としたチーム作りを志し、北相大会そして春の静岡遠征などの多くの練習試合を通じて、完成度の高いチームを作り上げました。

高校総体では強豪鎌倉に惜しくもPKで敗れたものの、選手権大会では残った3名の3年生を中心にしたチームで旭に快勝し3年ぶりのベスト16入りを果たしました。

この素晴らしい結果を残すことができただけ、OBの皆様方が忙しい中で、直

接我々に御指導して下さいさったり、試合を観戦して下さいさったりしたおかげだと部員一同心から感謝しています。

これからは校舎改築のためブランドのない悪条件のもとで、新チームが全国を目指し頑張っていきますので、さらなる応援をお願い致します。

◆試合結果

北相大会	12/28	湘南	2-1	多摩	練習試合	3/30	湘南	2-0	静岡	7/21	湘南	2-0	大和南	
	"	湘南	3-1	伊志田	練習試合	"	湘南	0-1	桜丘	7/22	湘南	5-0	横須賀大津	
	12/29	湘南	0-1	厚木南	練習試合	4/1	湘南	3-0	小田原	"	湘南	0-3	藤沢西	
	"	湘南	0-0	日大日吉	練習試合	4/2	湘南	1-1	有馬	7/23	湘南	2-0	清水ケ丘	
	12/30	湘南	0-2	厚木	練習試合	4/3	湘南	3-0	横浜商業	7/25	湘南	1-3	山形東	
	"	湘南	4-0	足柄	OB定期戦	4/4	湘南	4-1	筑波大附属	7/27	湘南	1-0	鎌倉	
練習試合	1/19	湘南	0-3	旭	練習試合	1/1	湘南	1-1	藤沢西	7/28	湘南	1-0	静岡西	
	1/26	湘南	0-1	横浜東	練習試合	4/26	湘南	0-2	大船	7/29	湘南	1-1	専大松戸	
湘南地区大会	2/9	湘南	1-0	長後	練習試合	4/29	湘南	0-2	大清水	練習試合	7/30	湘南	2-3	日川
	2/11	湘南	2-2	藤嶺	練習試合	5/3	湘南	1-0	城山	練習試合	2/3	湘南	2-3	西湘
	2/23	湘南	0-0	鶴嶺	練習試合	5/5	湘南	4-1	相武台	練習試合	8/7	湘南	1-0	住吉
	3/20	湘南	5-0	戸塚	練習試合	5/10	湘南	1-0	光陵	練習試合	8/8	湘南	4-0	柿生
フレンドリーマッチ静岡シリーズ	3/27	湘南	1-2	静岡北	練習試合	5/13	湘南	0-0	浦和	練習試合	8/10	湘南	1-0	清水ケ丘
	3/28	湘南	0-1	伊奈学園	練習試合	5/17	湘南	0-0	鎌倉	練習試合	8/11	湘南	2-0	旭
	3/29	湘南	1-0	愛知	練習試合	6/14	湘南	1-0	藤嶺	練習試合	8/26	湘南	2-0	大清水
	"	湘南	2-3	静岡西	練習試合	6/28	湘南	0-0	日大藤沢	練習試合	8/27	湘南	1-2	藤沢西
		湘南	0-2	郡山北工業	練習試合	6/28	湘南	0-3	百合ヶ丘	練習試合	9/13	湘南	1-0	光陵
		湘南	1-0	愛知	練習試合	7/4	湘南	0-0	湘南選抜	練習試合	9/15	湘南	3-1	七里ヶ浜
		湘南	0-1	五戸	練習試合	7/5	湘南	0-0	横浜国大	練習試合	9/23	湘南	0-3	東海大
		湘南	0-1	伊奈学園	練習試合	7/11	湘南	1-2	大清水	練習試合	10/4	湘南	2-3	藤枝東
		湘南	0-2	郡山北工業	練習試合	7/12	湘南	0-0	柏陽	練習試合	10/6	湘南	0-1	読売
		湘南	1-0	愛知	練習試合	7/14	湘南	0-0	鎌倉学園	練習試合	10/10	湘南	2-1	県相模原
		湘南	2-3	静岡西	練習試合	7/16	湘南	2-0	寒川	練習試合	10/10	湘南	2-1	県相模原
		湘南	2-1	静岡西	練習試合	7/18	湘南	2-1	深沢	練習試合	10/10	湘南	2-1	県相模原

平成4年度会計報告

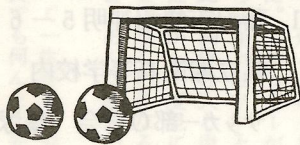
(平成4年1月1日~12月31日)

収入	会費・寄附	1,011,000
	特別会計から	50,000
	利子	7,321
計		1,068,321
支出	現役寄附	100,000
	ユニホーム寄附	241,432
	蹴球祭	235,680
	7月OB会	30,000
	遠征補助(OB)	80,000
	印刷費	128,000
	通信・事務費	132,000
	次年度へ繰越し	121,209
計		1,068,321

特別会計報告

「岩渕先輩の御遺志による寄付につきまして、平成4年1月の総会にかけ、次のとおり使用させていただきますましたので、御報告いたします。

収入	岩渕様より	500,000
支出	湘南藤沢招待	
	高校生サッカー大会へ	150,000
	カップ寄贈	
	記念品(ワッペン)	300,000
	一般会計へ	50,000
計		500,000



11/29	11/28	11/23	11/15	11/14	11/1	10/18
湘南	湘南	湘南	湘南	湘南	湘南	湘南
1-0	1-1	0-1	1-0	1-0	3-1	1-3
上	七里ヶ浜	鶴嶺	藤沢西	鎌倉	松陽	相模大野
						清水

事務局 便り



Ｊリーグ幕開けの年、サッカーをとりまく状況は我々にとって、待ちに待ったものになりつつあります。OB会報発刊にあたり、今回は特にＪリーグ関係OB

を中心に寄稿いただき、賑やかなものになりましたこと、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。
さて、昨年OB会総会において討議・決定されました2件につきましてご報告いたします。
一、故岩渕先輩夫人よりの寄附金使途について
記念に残る物ということで、「湘南藤沢招待高校サッカー」へカップを寄贈。(レプリカも含む)
OB会のエンブレムを作成し、OB各位(永久会員)に寄贈。
二、永久会員(会費免除)について

永年に渡りOB会を盛りたてていただいた会員(60歳以上、今年は24回生まで)に感謝するとともに、永久会員(部長・コーチも準ずる)として会費を免除。尚、本年は、25回生の方が一万円の最終会費をもって永久会員となります。(次年度より順次卒年に従って)
また、永久会員のOB会に対するご厚志はご寄附として有難く存じます。
△追伸▽
今会報で、ペガサス(シニア・ジュニア)の戦績が不掲載でしたが、OB会総会にてご報告の予定です。

＊蹴球祭・総会のお知らせ＊

多数の御参加を！

1月15日(祝)於 藤沢一中(湘南高校裏)

※学校改築工事中のため

8:30	会場使用可
9:00 ~ 11:00	ペガサス、ボールクラブ等 OB戦
11:00 ~ 12:00	対慶応OB戦
12:00 ~ 13:00	OB戦
13:30 ~ 14:15	OB会総会

【お願い】

■4年度会費納入の件

3年度は皆様のご協力ありがとうございました。本年もよろしく願いいたします。

- 社会人 5,000円(26回～)
- 学生 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、ご欠席の方はお手数ですが同封用紙にてお振り込み下さるようお願い申し上げます。尚、下記銀行口座も従来通りでございますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金

口座番号 019166

湘南高校サッカー部OB会

安保隆文 TEL 0467-22-1794

■住所変更等の連絡先

住所変更等がございましたら下記のOB会事務局までご連絡下さい。

〒251 藤沢市鵜沼神明5-6

県立湘南高等学校内

サッカー部OB会 藤塚久雄

TEL 0466-26-4151